

株式メモおよびその他のIR情報

株主メモ(株式のご案内)			
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
株主確定基準日	定時株主総会 期末配当金 中間配当金 ※期末配当のみとさせていただきます。	毎年3月31日 毎年3月31日 毎年9月30日	株主名簿管理人 大阪市中心区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月開催		
単元株式数	100株		
証券コード	6258		
上場金融商品取引所	ジャスダック証券取引所		
	同事務取扱場所	東京都中央区八重洲2丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〈郵便物送付先〉 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〈電話照会先〉 0120-176-417(フリーダイヤル)	
	公告方法	当社のホームページに掲載します。ただし、 事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告します。	

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。
【特別口座について】
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

平田機工株式会社ホームページ
<http://www.hirata.co.jp>



IR情報
<http://www.hirata.co.jp/ir/>



2009年7月 当社ホームページのIR情報をリニューアルしました。個人投資家向けのページを新設し、当社の事業内容、業績の推移、あゆみなど様々な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

●IR情報に関するお問い合わせ先
平田機工株式会社 経営企画部 IR・広報室

TEL **096-272-5558**
FAX **096-272-3618**
E-mail hirata_ir@hirata.co.jp



第59期
第2四半期
HIRATA
REPORT
平成21年4月1日～平成21年9月30日



代表取締役社長 米田 康三

代表取締役会長 平田 耕也

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第59期第2四半期累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）の事業概況を以下のとおり、ご報告させていただきます。

当期間は、世界同時不況の影響による景気の低迷が続いており、一部に景気の持ち直しの兆しが見られるものの、雇用・所得環境の悪化による個人消費の低迷や、先行きの不透明感から企業の設備投資に対する慎重な姿勢が強く残るなど、依然として厳しい状況で推移しました。

このような厳しい市場環境のもと、当社グループにおきましても、設備投資の手控えの影響を受け、受注が大幅に減少するなど厳しい状況が続いており、当期間の連結売上高は、167億85百万円（前年同期比 17.5%減）となり、前年同期を下回る結果となりました。

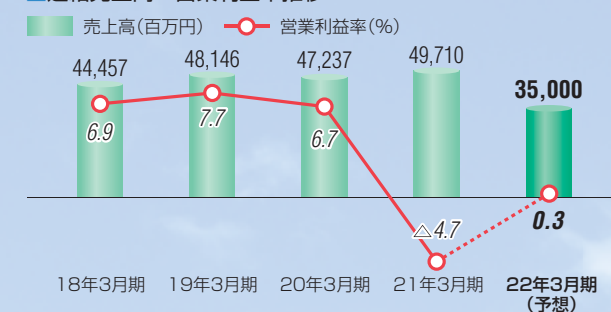
事業分野別では、FPD分野は、前期に受注しておりました大型案件の売上に支えられ、大幅な増収となりましたが、自動車分野では、完成車メーカーの設備投資意欲の停滞により大幅な減収となりました。半導体分野におきましては、半導体市況の低迷により、受注環境は依然厳しく減収となり、物流機器および家電関連分野におきましても、自動車の販売不振の影響によるタイヤ業界の設備投資手控えにより減収となりました。

利益面では、売上高の減少などにより、営業利益が2億97百万円（前年同期比 37.2%減）、経常利益は、為替差益が発生したことに加えて、金融費用を圧縮したことなどにより、2億41百万円（前年同期比 24.9%増）、四半期純利益は、米新クライスラー社の債権の一部を回収し、貸倒引当金の戻入益を計上したことなどにより2億60百万円で昨年同期と比較して増益となりました。

■平成22年3月期 第2四半期累計実績と通期業績予想（連結）

	第2四半期累計実績	修正後通期業績予想
売上高	167億円	350億円
営業利益	2.9億円	1億円
経常利益	2.4億円	0億円
四半期(当期)純利益	2.6億円	3億円
1株あたり四半期(当期)純利益	24.80円	28.55円
1株あたり配当金	0.00円	10.00円

■連結売上高・営業利益率推移



通期業績の見込みについて

当社は、平成21年11月13日に当第2四半期累計期間および通期業績予想の修正を発表しました。特に、通期業績予想の修正につきましては、売上高、利益ともに前回予想（平成21年8月7日発表）を下回る見込みであります。その主な理由は、売上高につきましては、受注の回復が緩やかな状況であること、営業利益につきましては、引き続き固定費の削減などに努めてまいりますが、不況の影響を受けて価格競争が激化していることなどから前回予想を下回る見込みです。これに伴い、経常利益および当期純利益も前回予想を下回る見込みであります。

今後の対応として、引き続き、緊急対策である個別案件の採算性確保、固定費の大幅な削減や抜本的な生産体制の見直しによる損益分岐点の引き下げなどを実行するとともに、受注の拡大に向けて、コスト競争力を

強化し、既存顧客の深耕、新規顧客の開拓など受注活動を積極的に展開してまいります。また、商品開発を迅速かつ効率的に行うため、熊本工場内に開発センターを設置しており、自前商品のラインナップの拡充を進めてまいります。当面の間、厳しい事業環境が続くことが予想されますが、これらの施策を着実に実行することにより、利益の確保に努めていく所存でございます。

今後とも投資判断に必要な情報を適時適切に開示するとともに、投資家の皆様のご意見を真摯に受け止め、長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

太陽電池事業を成長事業と位置づけ、 受注活動を強化

Hirataは、急成長が期待される太陽電池市場において、太陽電池製造工程における各種装置のほか、長年に渡る液晶基板の搬送技術を活かしたトータル搬送システムを提供しており、現在、受注活動を積極的に展開しています。

本特集では、Hirataが当分野で開発した各種装置および搬送システムの一部をご紹介します。

セル工程（セル搬送設備）

ソーラーパネル搬送コンベヤ

コンベヤでは、ソーラーパネルの搬送に適したベルト式コンベヤを標準化しました。品揃えとしては、「耐熱使用」「常温使用」「冷却コンベヤ」「バッファーコンベヤ」などがあり、お客様のご要望やプロセスに合わせた構成を低価格で実現できる体制を構築しています。



搬送コンベヤ

ソーラーパネル搬送ロボット

液晶事業における数多くのパネル搬送ロボットの実績を活かして、ソーラーパネルの物理特性を踏まえた搬送真空装置や検査機などにパネルを供給する高剛性ロボット「AR-0510PC」シリーズを開発しました。



搬送ロボットAR-J0510PC

モジュール工程（各種装置）

トリミング装置

高速切断を可能にした完全自動化のトリミング装置です。当社独自の歯の改善により、交換周期の延長、ワンタッチでの歯の交換など、生産機械としてきめ細かなコンセプトで開発しました。切削スピードの設定、切削順序など操作パネルを用いて簡単に操作することができます。また、フットプリント*を最低限に抑えることで、省スペース化を実現しています。

*フットプリント…
機器が占有する床面積やコネクタが占有するスペース



トリミング装置

その他の装置

当社は、お客様にトータルソリューションを提供すべく、トリミング装置の他、モジュール工程における各種装置（セッティング、キュア炉、ラミネータ、フレーム取付など）の開発、搬送システムの開発も積極的に行っています。



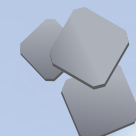
フレーム組立ライン構成例

太陽電池の製造工程

太陽電池の製造工程は、セル（注1）を製造するセル工程と、それらのセルを複数枚配線し、ソーラーパネルにするモジュール工程に大別されます。Hirataは両工程において、搬送システムおよび各種装置を提供しています。また、結晶型および薄膜型（注2）太陽電池製造ラインのいずれにも対応しています。

注1）セル……光を受けて発電する素子で太陽電池を形成する最小単位
注2）結晶型…シリコン結晶をスライスした基板を用いて発電する太陽電池
薄膜型…ガラス基板に直接シリコンの膜を蒸着させる方法でシリコンの使用量を減らした太陽電池

結晶型



太陽電池ウェーハ

セル工程

モジュール工程

薄膜型



ガラス基板

セル工程

モジュール工程



ソーラーパネル

生産管理システム

Hirataは、ロボットや各種装置だけでなく、強みである生産エンジニアリング、モノ造り力を活かして、お客様の生産全体の効率を改善するトータル搬送システムを提供しています。

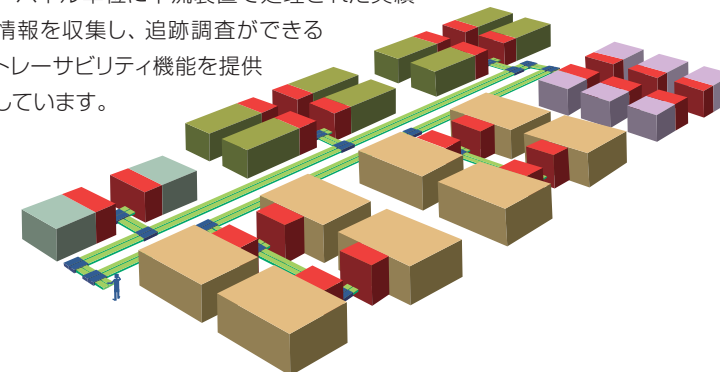


搬送管理システム

ソーラーパネル搬送設備に対する運搬指示をオンラインで発行し、工程内、工程間の搬送設備への指示を行うなど、ラインの自動搬送をサポートします。設備停止・異常を早急に察知し、最適搬送と保全性の向上を実現します。

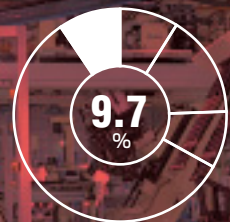
トレーサビリティ

パネル単位に下流装置で処理された実績情報を収集し、追跡調査ができるトレーサビリティ機能を提供しています。



自動車関連
生産設備事業

エンジン、トランスミッションなどの自動車の駆動系主要部品をはじめ、制御用電子機器、車載用電子部品などの組立設備の製造・販売



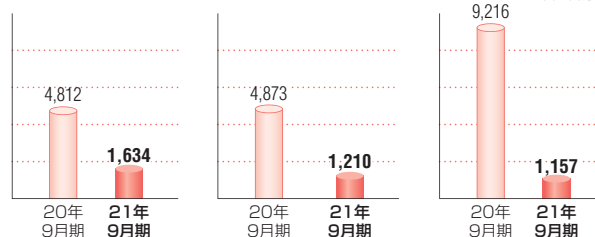
売上高 **16** 億円
対前年同期増減率 $\triangle$ **66.0** %

売上高

受注高

受注残高

単位:百万円



第59期 第2四半期累計実績

金融危機が深刻化した昨秋以降、新車販売台数の低下、米国大手自動車メーカーの経営破綻など、自動車業界は厳しい状況が続いています。当社は、積極的に受注活動を展開し、引合案件は増加しつつありますが、依然として完成車メーカーの設備投資意欲は停滞しており、当第2四半期累計期間の売上高は、16億34百万円(前年同期比 66.0%減)となりました。引き続き、事業環境は厳しい状況にありますが、新興国市場でのシェア確保、環境対応車種用の自動車部品分野への営業活動を強化します。



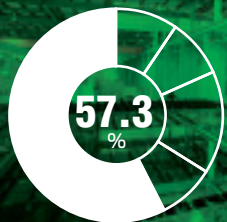
エンジン組立設備



トランスミッション組立設備

FPD関連
生産設備事業

液晶・PDP(プラズマ・ディスプレイ・パネル)のもととなるガラス基板を搬送するシステム、ガラス基板に感光剤を塗布する装置の製造・販売



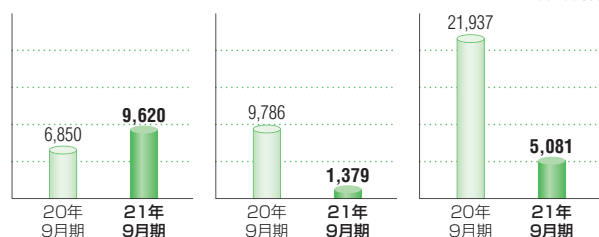
売上高 **96** 億円
対前年同期増減率 **40.4** %

売上高

受注高

受注残高

単位:百万円



第59期 第2四半期累計実績

前期に受注した国内での大型パネル対応設備をはじめとする大型案件の売上を予定どおり計上したことにより、当第2四半期累計期間の売上高は、96億20百万円(前年同期比 40.4%増)となりました。第2四半期に入り、国内および中国において、パネルメーカーの設備投資意欲は、活発化してきており、引合案件は増加しています。今後は、当社の強みであるシステム提案力を武器に、国内および中国パネルメーカーへの営業活動を強化し、受注の拡大を図ります。



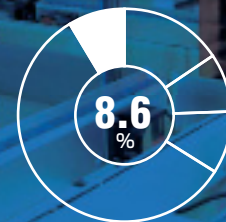
第10世代ガラス基板搬送ロボット



レジスト塗布装置(ヘッドコーター)

半導体関連
生産設備事業

ロードポート、ウェーハ搬送ロボット、EFEM(ウェーハの処理を行うプロセス装置の前面にあり、ロードポートやロボットを組み込んだ装置)の製造・販売



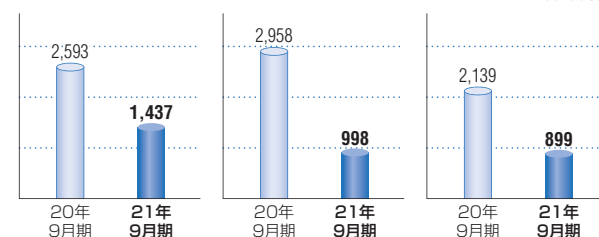
売上高 **14** 億円
対前年同期増減率 $\triangle$ **44.6** %

売上高

受注高

受注残高

単位:百万円



第59期 第2四半期累計実績

一部の大型製造受託などの売上を計上しましたが、受注環境は依然厳しく、当第2四半期累計期間の売上高は、14億37百万円(前年同期比 44.6%減)となりました。半導体製造装置市場の設備投資は一部回復の兆しが見られるものの、依然として厳しい状況が続いています。当社は、引き続き、ウェーハ搬送ロボット、ロードポートなどの半導体機器の拡販、北米市場への本格参入などを通じて、当分野における新規顧客の開拓と既存顧客内でのシェアを拡大させ、受注の拡大を図ります。



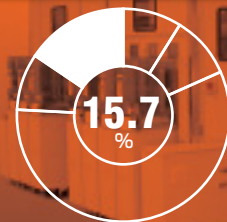
EFEM



ウェーハ搬送ロボット

物流機器および
家電関連
生産設備事業

家電関連分野では、薄型テレビ、冷蔵庫などの自動組立設備、タイヤ関連分野では、タイヤ搬送機、タイヤ仕分け機などを製造・販売



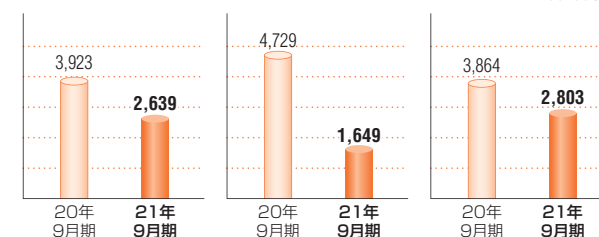
売上高 **26** 億円
対前年同期増減率 $\triangle$ **32.7** %

売上高

受注高

受注残高

単位:百万円



第59期 第2四半期累計実績

家電関連分野では、薄型テレビをはじめとする家電業界向けの設備の売上を予定どおり計上しました。しかし、タイヤ関連分野においては、自動車の販売不振の影響によるタイヤ業界の設備投資手控えの影響を受け、当第2四半期累計期間の売上高は、26億39百万円(前年同期比 32.7%減)となりました。引き続き、事業環境は厳しい状況にありますが、半導体後工程をはじめ、欧州向けタイヤ設備などの営業活動を強化し、受注の拡大を図ります。



タイヤ自動倉庫



薄型テレビ組立設備

連結財務諸表(要約)

■ 四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)			
科 目	前第2四半期 連結会計期末 (20.9.30)	当第2四半期 連結会計期末 (21.9.30)	前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (21.3.31)
【資産の部】			
流動資産	44,080	35,103	44,877
現金及び預金	5,458	11,338	11,116
受取手形及び売掛金 ①	19,076	16,805	20,482
商品及び製品	151	192	148
仕掛品 ②	16,900	4,417	10,203
原材料及び貯蔵品	293	322	320
繰延税金資産	1,620	1,406	1,776
その他	700	735	958
貸倒引当金	△ 120	△ 114	△ 128
固定資産	21,176	21,922	22,828
有形固定資産	17,471	16,566	16,765
建物及び構築物(純額)	5,592	5,075	5,153
土地	9,920	9,875	9,866
その他	1,958	1,614	1,745
無形固定資産	276	392	354
投資その他の資産	3,427	4,964	5,708
資産合計	65,256	57,026	67,705

ポイント

① 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、主に自動車、FPD関連の大型案件の売掛金回収が進んだ結果、前期末と比較して、36億76百万円の減少となりました。

② 仕掛品

仕掛品は、世界的な設備投資の手控えの影響を受けて、受注高が減少しているため、前期末と比較して57億86百万円の減少となりました。

③ 支払手形及び買掛金

支払手形及び買掛金は、生産高の減少により、仕入・外注費が大幅に減少したため、前期末と比較して70億90百万円の減少となりました。

④ 有利子負債

有利子負債は、主に自動車、FPD関連の大型案件の売掛金回収が進み、借入金の返済に充てた結果、前期末と比較して37億43百万円の減少となりました。

⑤ 売上高

FPD分野においては、前期に受注していた大型案件の売上を計上し増収となったものの、世界的な設備投資の手控えの影響を受けて、自動車、半導体、L&M分野は減収となり、売上高は、前年同期と比較して35億68百万円の減少となりました。

■ 四半期連結損益計算書 (単位:百万円)			
科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自 20.4.1 至 20.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (自 21.4.1 至 21.9.30)	前 期 (自 20.4.1 至 21.3.31)
売上高	20,354	16,785	49,710
売上原価	16,702	14,193	45,984
売上総利益	3,651	2,592	3,726
販売費及び一般管理費	3,178	2,294	6,067
営業利益	473	297	△ 2,340
営業外収益	92	142	144
営業外費用	372	198	748
経常利益	193	241	△ 2,944
特別利益	0	612	82
特別損失	61	40	1,781
税金等調整前 四半期(当期)純利益	132	814	△ 4,643
法人税等	133	545	△ 1,688
少数株主利益	△ 14	7	△ 9
四半期(当期)純利益	12	260	△ 2,945

ポイント

⑥ 営業利益

人件費、労務費削減および経費の見直しにより、販売費及び一般管理費は減少したものの、売上高の減少などにより、営業利益は、前年同期と比較して1億76百万円の減少となりました。

⑦ 経常利益

経常利益は、為替差益が発生したこと、金融費用を圧縮したことなどにより、前年同期と比較して48百万円の増加となりました。

⑧ 特別利益

特別利益は、米新クライスラー社に対する債権額の一部を回収したことによる貸倒引当金戻入益の計上により前年同期と比較して、6億12百万円増加しました。

⑨ 営業活動による
キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは、税金等調整前四半期純利益8億14百万円に対し、貸倒引当金が6億29百万円、売上債権が53億52百万円、たな卸資産が57億99百万円、仕入

債務が73億87百万円減少したことなどにより、40億99百万円の収入となりました。

■ 連結キャッシュフロー計算書 (単位:百万円)			
科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自 20.4.1 至 20.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (自 21.4.1 至 21.9.30)	前 期 (自 20.4.1 至 21.3.31)
営業活動による キャッシュフロー	△ 1,531	4,099	△ 5,344
投資活動による キャッシュフロー	△ 1,464	△ 149	△ 1,670
財務活動による キャッシュフロー	3,204	△ 3,783	13,166
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 23	54	△ 239
現金及び現金同等物の 増加額又は減少額(△)	185	221	5,912
現金及び現金同等物の 期首残高	5,203	11,116	5,203
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	5,388	11,338	11,116

⑩ 投資活動による
キャッシュフロー

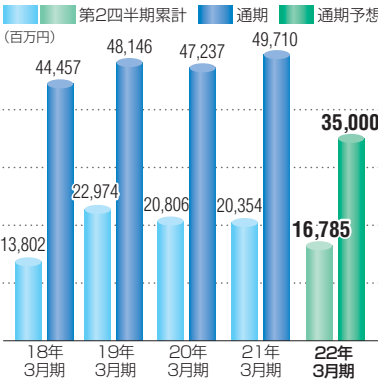
投資活動によるキャッシュフローは、有形固定資産の取得による支出54百万円、無形固定資産の取得による支出87百万円などにより、1億49百万円の支出となりました。

⑪ 財務活動による
キャッシュフロー

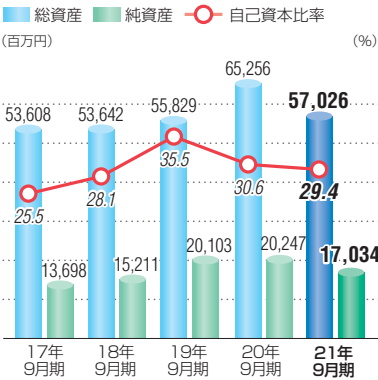
財務活動によるキャッシュフローは、短期借入金の減少による支出41億54百万円などにより、37億83百万円の支出となりました。

財務ハイライト

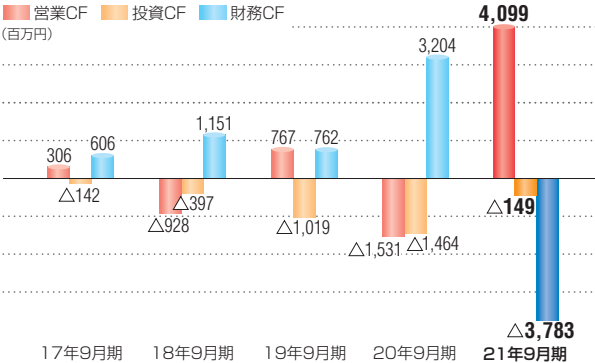
売上高



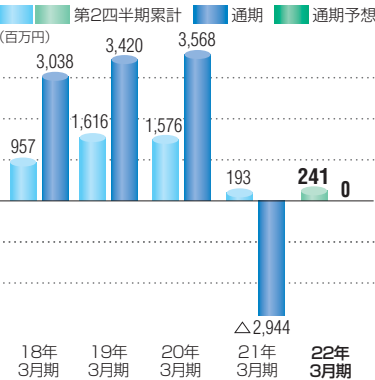
総資産／純資産



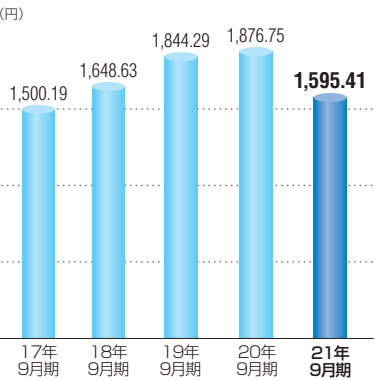
キャッシュ・フロー



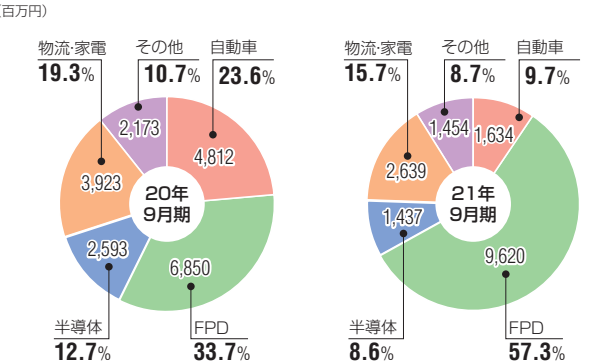
経常利益(損失)



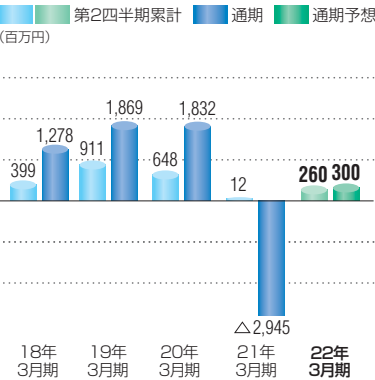
1株あたり純資産額



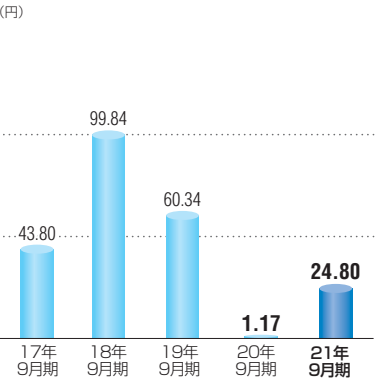
事業別売上高および比率



四半期(当期)純利益(損失)



1株あたり四半期純利益



会社概要

会 社 名 平田機工株式会社
会 社 設 立 1951年12月29日
資 本 金 2,633百万円
従 業 員 数 1,854名
業 務 内 容 各種生産システム、産業用ロボットおよび
物流関連機器等の製造ならびに販売
本 社 所 在 地 東京都品川区戸越3丁目9番20号

役 員 代表取締役会長 平田 耕也 執行役員 堤 春生
代表取締役社長 米田 康三 執行役員 藤原 五男
取締役副社長執行役員 平田雄一郎 執行役員 田中 敏治
取締役専務執行役員 橘 勝 義 執行役員 藤本 勝
取締役常務執行役員 小橋 正實 執行役員 平賀 靖英
取締役執行役員 坂本 広徳
取締役執行役員 松永 盛文

常 勤 監 査 役 小川 克眞
監 査 役 村田 邦夫
監 査 役 山田 昭
監 査 役 橋本 節雄

株式の状況

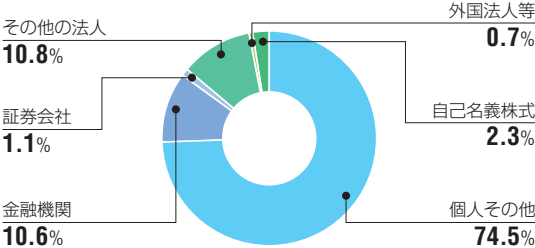
●発行可能株式総数 37,000,000 株
●発行済株式総数 10,756,090 株
●株主数 2,925 名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
平田 耕也	994,462	9.25
平田機工社員持株会	766,610	7.13
平田 紀生	575,162	5.35
SMC株式会社	500,000	4.65
平田 宏之	464,972	4.32
平田 満	457,629	4.25
平田 雄一郎	401,700	3.73
株式会社肥後銀行	376,000	3.50
平田 滋夫	363,044	3.38
有限会社コンパス	224,000	2.08

上記のほか、当社が保有している自己株式が249,387株あります。

●所有者別株式分布状況



●所有株数別株式分布状況

